
終わる世界に最後の約束を

youmu7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わる世界に最後の約束を

【Nコード】

N8974Z

【作者名】

youmu7

【あらすじ】

主人公 藤堂 亜紀（男）通称：俺だが、

ある日、同じクラス？の神崎から刀をもらう

厳密には返してもらった・・・かな？

その刀は俺の家の宝刀で……。え？俺こんな生活望んでないんだが？

その日から仲間が増えるわよくわからん理由で切られそうになるわ！俺の日常はもう戻ってこないんだ・・・そう、永遠に

序章┘終わりの時の猶予時間┘（前書き）

この小説は、初めて書いたので矛盾があると思いますw
あと、けっこう定番ネタですよ。

暇なときなどにどうぞ！！　ちなみに結構長かったりするのかな？
でも大丈夫！毎回10話くらいで大体の話がわかる様にまとめるか
ら！！

あれ？・・・見る必要なくねw　そんなことは気にせず！
ゆっくり楽しんでいてね！！

序章　終わりの時の猶予時間

「俺の家には宝刀がある」って言えば何人が信じるだろう。だってそれは只の模造刀かもしれないのだ。

普通の人にはそんなの見分けがつかないだろうが、最初に言っただ通り

「俺の家には宝刀がある」

だが、この宝刀を巡って大きな戦争になるとは普通だれも考えない。

只の不幸だと、時期が重なっただけだと思いたかった。だが確実に俺だけを狙ってくる集団。

あげくに、味方さえ裏切るものが出る

どうしてこんなことになったのか・・・。

それを今から説明していこう

序章┘終わりの時の猶予時間┘（後書き）

序章・・・なんかな？プロローグの方がいいかな？どっちでもいいかw

うん、これだけだとわけわからんね！！

でも見ていけばきっと・・・！！

あらずじ、序章は多少の変更あるかもです！！

第1話〜終わりの始まり?〜（前書き）

サブタイ定番過ぎー！！！！
W
W

第1話　終わりのはじめり？

自宅　自室

朝 - それだけで辛い、だって朝だぜ？眠いじゃん

「あきーそろそろ起きなさい」

とまあこんな感じにいつも通りなわけだが

しかし・・・母さんも疲れないのかな？毎日同じ事して

小さいころはうるさいだけだったけど今では声を聞いているだけで落ち着く

そんなこんなで俺は布団からゆっくりと起き時計に目をやる

「7:00か・・・しかし今日の気温3　てww馬鹿にしてるだろ」

そう特に朝が辛いのはこの為である。みんなもわかるだろ？

こんな寒い中なんで自転車で10分かかる学校へ行かなきゃならないんだ。

しかしまあ近いんだよなあーそれだけでも良しとするか！

7:10　着替え終了！いやあ着替えるまでってなかなか時間かかるよね？

寒い日に服を脱ぐとか・・・ちくしょー！！着替えたて寒いよー！

！！

こんなやりとりを続けて5分無駄にした。

7:15　食卓にて　ニュースによれば今日は快晴らしい

つてみればわかるよwwで今日は一日晴れ

「晴れでよかったねえ」母さんが笑顔で言う

「まあ寒いからな、晴れでよかったよ」父さんが言う

「でもさー。電車の中暑くね？」疑問を聞いてみたり

「それは人それぞれだがこれだけ寒いと逆に助かる」

父さんが質問に答える

とまあこんな日常が好きなんだよ

7:30　歯磨き完了！ゆっくりする時間もあったから今日は早め

に出るかな

いつもなら１０分後に家を出るんだが今日くらいいいだろう
なんだって今日は快晴だからだ！！

最近曇りやら雨やらでじめじめしてたんだよねえ冬なのに
雪が降ったのは２日だけ曇りやら雨やらは５日

つまり一週間ぶりの晴れなのだ！！しかも快晴！！

これをテンション上がらずしてどうする！

7：31 登校中

じゃあさくつと学校の説明でもしますか

学校の登校時間は８時４０分まで 遅刻したことはない

あとは普通だ。

7：40 学校到着 教室１－１ ３階端

さてと着いたわけだが・・早すぎた。

やっぱ早いと教室だれもいねえ

と思ったら奥の席に誰がいる？

うーんだれだあれ？転校生かな？

「あゝ、転校生さんですか？」質問してみた

答えは

第1話〜終わりののはじまり?〜（後書き）

結構短めでいきます！

こつこつ終わり方って

続き気になっちゃいますよねー！

第2話〜災いの原点〜（前書き）

新キャラ+すべての始まりです！

ここからようやく戦いが動き出すんですね！！

誰がしゃべっているかはわかると思っているので

省略させていただいております。

後々、つきますんでww

第2話　災いの原点

「違います」へ???じゃあなんで学校にいの?

あーちなみに黒髪ロング身長160くらいかな?あとはまあとりあえずだ・・落ち着こう。

多分あれだ!幽霊だ!!あーそう思うと気が楽になってきたぞとか考えつつも席に着く俺。それに転校生が近づいてきて

「私、あなたと元から同じクラスなんだけど・・。」

えへへゝしまったww友達とかとはしゃぎまくってて

全然クラスの仲間の顔おぼえてないやあゝ

「えっと・・すいませんでした!最近学校来ても寝てたり遊んでたりするから

全然クラスの人(男子以外)おぼえていませんでした!!」

まあ全力で謝るのは当然だよな?てか俺ひどすぎだろ!でも窓際の人の顔とか名前とかって覚えにくいよねゝ

「私の名前は 神崎 真帆 です」結構怒ってらっしゃる

「俺の名前は藤堂 亜紀です、しってましたよねww」

「下の名前はしりませんでした」

「それが普通ですよww」

とこんなやりとりをしてもだれも来ない

7:45 教室

異変に気づいたのはそこら辺からだろうか、まず外が暗い、いやちがうな外は青色・・。

へ?青色ってなんだよ!?あれか色つき下敷きでも貼られてるのか俺は?

でさっきの神埼はどこに?外か!?

?:?? グラウンド

その中心に彼女はいた。

しかし本当に神崎か?青いからかもしれないが・・

いや見間違いじゃねえなあいつ髪の毛白くなってやがる

神崎はゆつくりこちらを振り返る

落ち着け俺、これは夢かもしれない下手に動けば寝ている俺が
変なことになる・・・。

「どうしたんですか？ まさか夢、とか思ってます？ ふふふ」

夢じゃないのか！ おつしゃー！ 動いても大丈夫だー！

あれ今声後ろから・・・でも神崎は動いていなかった・・・はず
なのに・・・なんで・・・おれ・・・横に飛んでんだ？

「ぐはあ」グキツつと鈍い音をたて地面に叩き付けられた

どこも折れてはいなかったがしうて言うなら心が折れたなww

「どうしたんですか？ 弱いですね あははは」

畜生笑いたいのはこつちだよ・・・。

どうする？ 近づく？ 逃げる？ いや逃げるのは駄目だ

いいぜ、倒してやる！！

「やつとその気になりましたか」

神崎が刀を投げてくる。それは俺の前で落ち

「っ！？」俺はこの刀に見覚えがある

よく小さい頃に見たことのあるそれは・・・。

「それあなたの家の刀でしょ？」

そうだよく祖父からいわれていた

『その刀を抜いていいのは覚悟ができた人のみ！』

その時俺は・・・その刀を・・・抜いていた！！

「あはははやつぱあなたのだったんですね！！」

「だったらどうする？ お前を切り刻めばいいのか？」

「怖いですよ、ただ私はその刀の持ち主を探していただけなのです
から」

「ならさっきのはなんだ？」そう攻撃のことだ

「あれはあなたをその気にさせるための唯一の手段ですわ」

「唯一？」

「そう時間がないのですよ、こちらにはほらもうすぐ結界も解ける。」

だからあなたに一つだけ言っておきます」

- その刀はあなた。その刀を手放すことは許されない -

第2話〜災いの原点〜（後書き）

新キャラ：神崎！ 初めは156cmだったんですがねww
グラウンド時、神崎の目は赤色です。通常は黒
色つきの下敷き（青）を買えば同じ体験できるかも？ww
ちなみに主人公に見た目の変更はなしwwかわいそうに・・。

第3話　敵か味方か　（前書き）

第3話です！

また新しい人ですね

第3話　敵か味方か

気づいたら机で寝ていた・・・。

と・・・とりあえず状況確認だな！えつと・・・12時？

あ・・・あれ！？学校来たの8時だったよな・・・。

あー。あの世界時間たつの早いわけか、なるほどあ・・・。

だとしてだ、どうするよ？このまま寝てるか、授業を聞いているか。
だがそんなことしてる暇はなさそうだwwチャイムなりやがったよ
お昼休み

まあアレだ昼食シーンなんていらないよww

みんな食堂いくから、誰も残ってねーだろうな。

あれ？一人残ってる。同じ弁当組かな？

しかもすぐ見られてるんだが

あれか？刀の件か？うそーん、ならくればいいのに・・・。

あーはいはいきますよーいくから睨まないでーすぐ怖いから！！

「で、なんの用なんだ？」まずこれ聞かないと始まんないからなww

「別に。」！？あれれ？間違えたわww気のせいかなそうですか

「神崎」え？神崎？？

「神崎がどうかしたのか？」しかしなぜいきなり？？

「やはり知っていましたか」あはは・・・。トラップかよ！！

「知ってるが？」

「では早速・・・宝刀いただきますよ？」あーフラグの方ね理解

「あげませーんよ」なんか変なテンションでいっちゃったww

「そうでなくては困ります」ですよねー

「ちよいまっ」ブオンの音とともに刀が振られる

教室の中には人が・・・、てか昼休みだからだれもいないんだった

ww

しかも何？刀燃えてますよ？？つてよく見たら・・・剣じゃん！？
だがその炎は机を焦がさなかった。いわば飾りなんだろう

「死にます？」

「いやですww」

「では、しんでくださいっ！」

おかしいなww断つたら殺される、理不尽ですよ!!

「よけないでくださいよ、机切っちゃいますよ？」

「え？ちよいwwやめてw机はまづい」

「ならなんですか？教室でも切ります？」

「いやいやww切るな！まてやめろ！」

その時は教室切るとおもってた。。

けどちがった

そいつは。。

チヨークを折った。

「じみいいいいい!!！」

「え？なにがですか？」（　　）エッ・・・？　こんな顔

そんな顔でいわれてもwwかわいいじゃないか！

まあチャイムが鳴ったからいつものように授業の用意してたんだが・

。。

来た　あの世界だ

第3話　敵か味方か　（後書き）

ちなみにこの間の青の世界は結界です
刀を持つてる場合は青くならないです
ちなみに神崎も爆睡してましたw w

第 話〰補足〰（前書き）

なんでこんなことに？など
自分でもわからないところの補足説明です

第 話く補足

- ・ 神崎の髪と目の色が変わったことについて

自分の宝刀でないものを持つとそれぞれの効果がでます

藤堂の宝刀は 髪を白、目を赤にする代わりに

攻撃の威力の増加、瞬間移動の使用ができる。

ただし自分に来る負荷はなかなかの物である。 場合により吐血する

- ・ 爆睡について

神崎が夢ではないといったにも関わらず、なぜ寝てたのか。

これはいまいちよくわかってないのである。

- ・ 結界について

これは現実とは別の世界ということ

結界にはいくつかのパターンがある

1：中にいるものは現実では睡眠中である

（ただし時間経過の結界の場合のみ）

現在の登場はこれだけ

- ・ 神崎の結界について

これは時間経過の結界

時間が経つのが早いため注意が必要

- ・ 睡眠中の授業について

これはどうしようもない

ただ先生は起こそうとするであろうが

結界時は起きない。

ただし現実の体に問題が起きた場合は起きる。

- ・ 宝刀について

ある家族に元から存在する刀を宝刀と定めた

宝剣も登場したが、これも定められたもの

ちなみに模造刀も極稀に含まれる

- ・ 宝刀&宝剣の効果

藤堂の宝刀は現段階で

瞬間移動である

神崎と3話での新キャラは現在不明である

・宝剣の炎について

これは新キャラが持っていた物だが

現実ではただの飾りである。

結界内のみ効果あり

第 話 補足 (後書き)

とりあえずここまで

何かまだわからないことがあれば
感想の方でお願いします

第4話〜白熊登場!?! (前書き)

まさかチョークをピンポイントで折れるとは・・・。
はっ！実はピンポイント攻撃ができるのか？

第4話　白熊登場！??

「神崎さんのでは時間が進むようですが・・・。私のは進みませんよ?」

「へえ・・・。ありがたいな」

「さっきの質問なんですけど」

「なんだ?」

「地味とはなんですか!? 私がですか! そうなんですか! どうなんですか!」

「うん、落ち着こうねww」

「・・・。すいません。で、どうなんですか?」

「いやチヨーク折るのがですよ!、それとかわいいですよ!」

「最後のいらないですね」

「えー・・・。せつかく勇気でしていつてあげたのに」

ブウン　またあの剣か

「ここじゃあ邪魔は入りませんよね?」

「いや、入るねww」

「え? どうやって、なんのために?」

「3, 2, 1、こい!」

「やつぽー神崎ちゃんです!」ここから名前つきでいきます!?
? 「どうしたあなたが!」

神崎「しりませんよ　呼ばただけですから」

俺「呼んだだけですから」

神崎「ねえ相坂さん?」

相坂「なんですか?」

神崎「よく人に宝剣みせますねえww」あつ・・・。っていう顔してた　てか見せたら駄目なのね

相坂「じゃあ消えてもらわなくては!」

俺「理不尽な世界だねえ」

相坂「なにもわかってないやつがいうな!!」

俺「すいません」

「お？さらになんかくんぞ？」

神崎&相坂『え??』

ドゴーン！ そんな音とともに・・。

なんだこれ?・・モンスターか?

神崎「え?え?なんでこんなでてるわけ??わけわかんない!」

相坂「てかなんで来るってわかつたんですか!??」

俺「知らんがな」

?「クマアアアア!!!!」

俺「なにもいえねえよ!てかなにいつてんだよ!叫ぶなよ!うるさいよ!」

神崎「てか白熊？」

相坂「さらにぬいぐるみとはやってくれます!」

俺「どうすんのこいつ!かわいすぎだろwww」

神崎「とにかく倒しますよ!!」

?「やめてえええええ」

俺&神崎&相坂『!??』

?「やめてよう・・別にまだなにもしてないよ?どうして攻撃するの?」

俺&神崎&相坂『・・。』 イヤ、サケンダジャー力・・。

神崎「離脱します!アデュー!」

俺「あ!こら逃げんな!!・・逃げられたww」

相坂「私も離脱しますねえ でわ」

俺「ちよっ!??で?クマさん・・名前は?」 てか俺一人でも世界は消えないのね。

というかどうやって抜けるんだ?この世界から

?「名前・・?ないのでつけてください」

か・・かわいすぎて死ぬ・・。新手の攻撃か?

あ「ええ・・とアリスでいいか?」

ア「はい！」

あ「でなにしにきた」

ア「お供です！」

マジ、ナンデサケンダノ？

第4話〜白熊登場!?!(後書き)

アリスの登場ですね!

なぜ人に宝剣・宝刀をみせては駄目なんでしょうね?

第5話〜日常世界の一端〜（前書き）

わかりにくいですが結界に出た後から少し経っています

第5話　日常世界の一端

というわけで現実です

席替えしました！なんでよこが神埼なんだww

神埼「ねえねえ」

俺「なんだよ？」

神埼「結局あの後どうしたの？」

俺「なんかお供するってさ、ついてきたよ・・・。」

先生「そこ！！うるさいぞ！」

俺＆神埼『すいません』

授業終了

怒られてからは普通にしてた。

神埼「しつかし・・・。どうすんのよ？」

俺「アリスの事はいいだる別に」

神埼「ちがうよ」

アリス「！！！」

俺「ん？うわつつ」ブンツ

相坂「外しましたか・・・チツ」

神埼「お！やるの？じゃああの世界いつとく？」

相坂「いえ、もう済みましたので」どっかいつちゃった・・・。

俺「てか、アリスどこいった？」

神埼「え？いないの？w」

俺「ああ、ちよい探しに行ってくる」

神埼「どうぞどうぞ」

廊下

俺「おゝい！！相坂！！！」

相坂「うるさいですよ、なんですか？」

俺「アリス知らないか？」

相坂「はい？誰ですか？」

俺「ああ、熊だよ白熊」

相坂「あの子ですか・・・知りませんか？」

ん？・・・嘘か？いや、どっちだ？

攻撃されたときに相坂が盗んだか、攻撃後に神崎が盗んだか。

まあアリスが自分でどこかにいった可能性も・・・ジジッ 結界発動音

俺「あのさ・・・やつはお前なのか？」

？「・・・」違う・・・また新しいやつか！！

ブンッ ぎりでかわしたが・・・

？「ちよつとはやるようで・・・では、フルいきますよ！」

俺「は？」バンッ！！ 今の・・・なんだ？

？「あははは、ビビッテル！」てか周りが暗い・・・いつもの場所じゃないだー！？

？「じゃあもつといくから！避けてね？」シュバババ

あゝ理解・・・銃器か、納得。だが見えない

てか、当たってない？いや、当ててないのか・・・。

？「さすがに不利なままは可哀想だね、」そこは・・・どこだここ？

俺「おい・・・ここ、どこだよ？」

第5話〜日常世界の一端〜（後書き）

まさかの新結界登場ですね

この結界の特徴はなんでしょう？

と、その前に銃器の登場！

宝刀持ちか宝剣持ちか・・。

どっちでもないのか！？

第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜（前書き）

すいません！時間あげすぎましたww
今日からちゃんとします！

第6話　白熊（アリス）戦とその後

アリス「知らないんだあwここはアリスの世界なんだよ？」

俺「なるほどな・・・畏というわけか。」

アリス「畏？違う違うw」こいつ・・・

俺「いいぜ・・・お前も宝刀狙いだろ？」

アリス「気づいてましたか」今なんだけどねww

俺「ならさつさと終わらす・・・って、誰だよお前？」

アリス「???アリスですよ？」

俺「アリスは白熊だ・・・だがお前人間だろ？」しかもゴスロリ

アリス「アリスは化けていただけなのです」

もうひとつわかったことがある・・・。銃器だけじゃない、鈍器もありやがる。

アリス「では、ショータイムですよ!!」

俺「っ!？」バンッ!

「おいおいSGは反則じゃないか？」SG「ショットガン

アリス「ハンデですよ、早く刀抜いてくださいよ」

俺「・・・抜いてるが？」

アリス「え？抜けてないですよ??」

俺「はあ、武器の特性・・・奪うなら覚えて来い」　ちなみに特徴

については神崎が教えてくれた

ドンッ　チヨイ反則だが・・・しかたないよね？

「後ろからは・・・反則・・・です・・・。」悪い

一応説明しておくか、宝刀にはそれぞれ特徴がある、俺のは加速。

まだあるらしいけどね

多分感知能力もあると思う。アリスのは、偶然ではなさそうだしな

現実

神崎「でー、なにしてたの？」

俺「はい？」

神崎「さっきまでいなかったじゃん！」

俺「ああ、アリス探してた」アリス結界も時間経過なし

神崎「見つかったの？」

俺「おう、カバンの中に居た」

神崎「でもカバン見てたよね？」

俺「ああ、奥の方に居たみたいでさ・・・。」

相坂「まったく失礼な人です」

アリス「！！！」

俺「起きたかw」

神崎「おはよー」

俺「もしかして、相坂嫌われてる？ww」

相坂「え？」

ア「そんなことはないですよ？」

俺「よかったねえ。」

相坂「なぜ私が嫌われてると？」

俺「だって、タイミングが・・・。」・・・あばば、剣危ないです。

周りの人見えてないのかな？

「ごめんなさい。本当になんでもないです。はい」

ああ、剣をなおしてくれた

俺「で、さっきのはな・・・」ジジッ

第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜（後書き）

アリス戦短いww

全体的に戦闘パート短いですね・・・。

宝刀などの詳しい事はまた次の補足でやります！

第7話〜一日終了〜（前書き）

やっと一日が終わりますね
あ、次補足です

第7話〜一日終了〜

ふざけてる・・・てか今の、いつもよりひどいぞ？

アリス「ちょっと！ばらさないでください！」

俺「すまん・・・でもやり方があんだろ」

アリス「緊急事態でしたから！！ちなみに正体ばらしたら怒ります！！」

俺「怒るだけかよ・・・」かわいいな、

「おっと。で、お供つてのは嘘か？」

アリス「え？嘘じゃないですよ？」

俺「なるほどさっきの戦いは力試しか。その擬人化も結果内だけか？」

アリス「違います。でも無闇に使わないほうがいいと思ひまして」

「あとこれがアリスの武器です！」

えっと・・・銃器、鈍器、刀か

俺「ん？この刀だけなんか違うな」

アリス「それが私の本当の武器です」

俺「なるほどね」刀はオレンジ色に発光している

「じゃあもう、もどるぞ？」

アリス「はい！」

俺「しただけど」で、さっきの・・・の続きから

神崎「さつき？」

俺「ああ、アリス。なんでカバンの中にいたんだ？」

アリス「え？だって次体育ですよね？」

俺「え・・・？あ、違う違うww今日は保険だww」

アリス「え！？すみません！！」

神崎「大丈夫だよ、ちょっとあせったけどww」

放課後

俺「さて、アリス。帰ろうか」

神崎「え!？」

俺「なんだよ・・・」

神崎「家につれて帰るの？」

俺「普通だろ？アリスもそれでいいよな？」

アリス「はい！」

俺「ということで帰るわ。じゃあな」

神崎「大丈夫かなあ・・・」

相坂「何をそこまで心配しているんですか？」

神崎「ん？なんか裏がありそうだなあゝって」

相坂「あいつの事は知りませんよ。さあ私たちも帰りましょう」

神崎「そうだね。悩んでも仕方ないもんね」

自宅

俺「ただいまゝ・・・って誰もいないか。」靴ないもんな

自室

俺「よし、もういいぞアリス」

アリス「はい、よいしょ」

俺「しっかし、お疲れ様。2時間はきつかっただろ」

アリス「そうですね、でも寝てたので大丈夫です！」

俺「寝てたのかよw」暇だもんな

「そーいや飯とかどうすんだ？」

アリス「擬人化時はお腹すきますがこの状態なら大丈夫です」

俺「そうか・・・」

その数分後親が帰ってきた

自室 就寝前

いろんな事とばしたけどまあいいだろう

俺「アリスゝどこで寝る？」

アリス「普通にいいです」

俺の家はベッドではなく布団派です

俺「普通か・・・じゃあ横？」

アリス「はい、それで大丈夫です」

そつとう眠たいらしいな

第7話〜一日終了〜（後書き）

長い一日ですねw

第 話 補足 (前書き)

今回は宝刀の詳しい説明などですね w

第 話 補足2

結界の新種類

1、時間を経過しない結界について

時間を経過しない代わりに別の宝刀所持者に介入されやすいさらには結界内の所持者の力を下げる。

2、場所変更可能結界について

これは時間経過無し・力を下げることもない介入されない。と普通の結界なのだが発動するまでが長く、発動したあとが短いと、即効性に欠ける

宝刀・宝剣について、パート2

現実時宝刀・宝剣について

現実での宝刀剣は所持者以外見えず宝刀剣自体が粒子になっているためわざわざ持ち歩く必要がない

現実時の威力・能力について

- ・威力は半減するが斬ることは出来る
- ・能力に変化はない（一部例外有り）

宝刀剣の発光について

- ・パートナーとなる人物がそばに居る場合

共鳴して発光する。色は持ち主の好きな色にできる

アリスの能力について

- ・擬人化能力

これは宝刀の力だと思われるが実際不明である

ぬいぐるみ状態だと斬られても無傷

擬人化時の体力は普通であるが

ぬいぐるみだと半分である。

神崎と相坂の関係について

現在では友達と思われるがパートナーとも考えられる
パートナー制について

宝刀剣の所持者間で能力を共有できる

パートナー選びに制限はないが

能力や仲が良い人と組むのがいいだろう

第 話 補足 2 (後書き)

次の補足は 15 部です！

第8話〜2日目開始〜（前書き）

タイトルが思いつかねえww

今回からサイドストーリーー来ます！！

第8話〜2日目開始〜

教室 1 - 1

さて・・・また早く来てしまったな。

今回は・・・誰も居ないな。

ちなみにアリスだが・・・。

俺「なんで擬人化してんだよ・・・。」

そう、これが早く登校した理由なのだ

アリス「えへへゝ実は転入するんですよ！」

俺「え・・・？」

アリス「しかもこのクラスですよ！」

俺「え、ああ・・・うん？」

アリス「昨日決まってたんですけど、さすがに友達無しはきついで
すから」

俺「おいアリスちょっと待て」

アリス「はい？」

俺「お前・・・どこから学校に通うつもりだ？」

アリス「もちろん亜紀さんの家から！」

俺「おいおい・・・。」

アリス「両親の許可も出ていますよ？」

俺「は・・・？いつの間に」

アリス「朝ですよ？」

そっぴや起きたときアリスいなかったな・・・。

てか親ゝ！何納得してんだよ

俺「名前は何になるんだよ・・・。」

アリス「藤堂 愛華 だそうです」

俺「愛華って・・・呼び方アリスのままでいいか？」

アリス「もちろんですよ！！」

俺「てか、職員室いかないといけないじゃねーか！」

アリス「そうですね」

職員室

俺「失礼します！」

アリス「あれ？まだ誰も来てませんね」

おかしい・・・それ以前になぜ・・・。

誰もこないんだ？ 現在8：10分

俺「まさか・・・結界の中か！？」

アリス「え？でも誰が」

俺「わからん・・・だとすると、アリスの体がどこで寝てるかが気になる」

アリス「もしかするとぬいぐるみになって鞆の中にもいるかも」

俺「・・・教室帰るか」

アリス「そうですね、でも私はどうしましょう？」

俺「一旦ぬいぐるみに戻れ」

アリス「はい！」

第8話〜2日目開始〜（後書き）

これでアリスとバレずに擬人化できますね！
忘れてないと思いますか
亜紀「俺 ですからね？」

第9話〜集団睡眠〜（前書き）

男子A！！まさかの新キャラですよww
でも男子Aはストーリーに関係ない・・・かな？

第9話　集団睡眠

教室　１－１

俺「あれ？みんな来てる」

神崎「お！おっは」

俺「おう、あのさ・・職員誰もきてないぞ？」

神崎「なんと！ミラクルだね」

俺「そんな面白い話じゃねーよ」

男子A「おお藤堂・・なんだよお前ら昨日から急に仲良くなりやがって」

俺「わるいわるいw　で？どうした」

男子A「ああ、なんか今日転校生くるってよ」

俺「ああ・・俺の妹だ」

男子A「まじかよ！、ん？でもなんでうちのクラスに？」

俺「さあな」

神崎「妹いたの？」

俺「ああ、義妹がな」

神崎「なんだ義理かあ」

俺「ん？そっぴやなんでみんな寝てるんだよ」

神崎「そっぴやそっぴだね」

俺「男子Aまで寝てるし・・・さっきまで話してたくせに」

神崎「やばい、私も眠い・・・」

俺「ああ・・同じく」

ここで多分寝たと思う・・。

ちなみにアリスは鞆にはいつている

俺「ん・・あ！やべっ寝てた」

神崎「zzzz」

まだねてんのか・・。

いや、みんな寝てる・・・だと!?

俺「アリス!おい!」

アリス「・・・ひゃい」

俺「起きろ!」

アリス「なんれすか・・・。あれ?みんなねてまふね」

俺「もしかしてまだ教師きてないのか?SHR始まってんぞ?」

神崎「うそっ!SHRはじまってんの!」

アリス「!!!」

俺「神崎・・・うるさい、アリスビビッてるだろうが」

神崎「あ、ごめん。って誰!」

アリス「???アリスですけど?」

俺「ああ、こいつはこの前の白熊だ。そして義妹だ」

神崎「この子だったのか・・・ってえ!」

アリス「擬人化中です!」

俺「とりあえず、アリス職員室いくぞ」

アリス「はい!!」

神崎「私は?」

俺「一緒にくるか?」

神崎「うん」

職員室

俺「失礼しますっ」と

神崎「適当だね」

俺「いいんだよ、ほら」

アリス「こちらも全滅ですね!」

寝すぎだ・・・こいつら

俺「そいや相坂はどうした?」

神崎「あの子は今日休みだよ?」

俺「そうか・・・。一旦帰ろう」

神崎「どこに?」

俺「教室にだ、それとも家に帰るか?」

神崎「それはめんどいです」

アリス「でも戻ってからどうしましょう?」

俺「とりあえず・・・戻ろう」

第9話〈集団睡眠〉（後書き）

アナザーで、職員室に行くかの決断時に
こちらでは職員室に來ています
ですので3組にあつことはなかつたのでしょう

アナザー序章＋第1話（前書き）

アナザーはタイトルなしです！

ちなみにこちらはもうひとつの勢力？

世界の滅びに関係あるかも？？

主人公は別人です 姓は森 ですが名がまだ
あと同じ学校です！

アナザー序章＋第1話

俺はただの学生・・・のはずだった、ありがちな話だがある出来事によりそのあまりにも退屈で楽しかった生活が簡単に崩れ落ちたんだ・・・。
たかが・・・刀一本の為に。

朝 自室

俺「ねむ・・・はあ・・・曇りかよ。」

いつもと同じ朝、それは良い。ただ不思議な点があった俺「？　なんだこの刀・・・。」

見覚えのない刀が自分の部屋にあった。

多分家族の誰かが置いたのだろう

そんな気持ちで着替えを済ませる

リビング

朝はみんながバタバタしている

ただ眠たい俺だけが時間の輪から外れてるような

そんな気持ちになったことはあるが、全部杞憂だった

いつも通り、朝食を済ませ学校に出かける

他の工程については話す必要もないだろう

学校門前

学校について軽く説明でもしておこうか

何の変哲もない学校　今はとくに行事もなく

だらだらとした雰囲気である。

クラスについては・・・学年別全4クラス

俺は3組だが・・・クラス分けなど気にしない

ちなみに自分の教室は三階だ

教室 1 - 3

いつも通りうるさいクラスだ・・・。

逆に静かだと居心地が悪いが、まあいい

友「よゝゝふぁ」

俺「あくびしてからしゃべれ」

一応の説明 友達Aこと『神崎 繁』読みは かんざき しげる だ

神崎「でもさ、眠くね？今日は特に！」

俺「前も聞いたぞゝゝだが眠いのは同意だ」

神崎「だよなー、昨日寝たの10時だぞ？」

俺「早いな、そんだけ寝れば眠くないはずだがゝゝ」

神崎「まさかゝゝ！これは事件か！？」

俺「そんなわけないだろうゝゝやばいな、裏に陰謀でもあんのか？眠すぎる」

神崎「陰謀はないないwwゝゝんっ？」

俺「ゝゝハッ！？」

神崎「（ニヤニヤ）ねましたな？」

俺「本格的にまずいゝゝ立ち寝、おそろしいやつめ」

神崎「ではSHRまでねますか」

俺「おう、次の休み時間に会おう」

そのときは本格的にまずかった

何がまずいかというと意識が飛びかけていた

自分の席に着いて用意を終えると

意識がなくなった

教室1-3 SHR

顔を上げると同時にチャイムが鳴る

神崎はというとゝゝゝ？

あれ？クラス全員が寝てるゝゝ？

仕方ないよな、眠いもんな

チャイム後 5分経過

ゝゝあれ？先生が来ないゝゝ。

おいおい、まさか先生までもが寝てんのか？

俺「おい、神崎起きろ」

神崎「ハッ！寝過ごしたか！？」

俺「先生がまだだから大丈夫だ、それより・・・」

神崎「？・・・あれ？みんな寝てる」

俺「そうだ、こいつは陰謀とかの話じゃないぞ・・・。」

神崎「え？睡眠ガスとかないでしょ？」

俺「ああ、現に俺たちはおきれている」

神崎「みんな起こす？」

俺「その前に職員室にいくぞ、それともここでみんなを起こしておくか？」

神崎「そうさせてくれる？職員室ってあんまり・・・」

俺「わかった、寝るなよ？とりあえず立て」

神崎「おカタッきさて・・・いつてら」

俺「ああ、」

アナザー序章＋第1話（後書き）

実はアナザーの神崎と通常の神埼は、おっと！
それはのちのち

この話はちょうど通常8話と同じ時間軸です

アナザー第2話（前書き）

職員室到着は藤堂たちの撤退2分後

アナザー第2話

職員室

俺「失礼します、1 - 3の・・・」

予想的中・・・か？よろべねえよ

案の定、教職員全滅・・・。

ただ不思議なのが、全員が席に座っていること

俺「せんせ？起きてください（ゆさゆさ）」

先生「・・・・・・・・」

駄目だ起きやがらねえ

・・・・・・・・

なんでだ？全職員起きないとかおかしいだろ

とりあえず帰ろう教室へ

教室1 - 3

帰ってくる間に隣とかのクラスをみたが

全滅、なんでだ？

俺「神崎？」

神崎「あはは・・・起きないよ」

俺「なんでだ？朝あんなに騒いでたのに」

神崎「まさか外でも!？」

俺「考えたくはないな・・・」

神崎「みんな寝てるし一旦家の様子を・・・」

俺「俺の家は現在誰もいないはず・・・神崎お前だけ帰れ、途中で

寝るなよ？」

神崎「え？あ、う、うん！じゃあ撤退します！」

俺「本当にねるなよ？」

神崎「だいじょーぶ！」

とりあえず神崎は帰った、さて、俺はどうするんだ？

帰るべきか・・・いやその選択肢はないだろう

ここに神崎が帰ってきた時俺がいなければ・・・
おそらくは、まあいい。

そっいえば体育の授業は？

俺「!？」

グラウンドには体育の授業を受けるはずだった生徒が
寝ていた・・・この距離だからわからないが
まさか・・・死んでないよな？

グラウンド 1時間目開始5分後

全員生きていた、当然だよな

誰も起きる気配なし。どうすればいい？

神崎の帰還を待つか、

とりあえず今日曇りよかったな。

教室 1 - 3

暇だ、することがなさ過ぎる。

現在1時間目の25分経過

神崎の家は近い、ちなみにあいつがでていったのは

一時間目開始前だ 時間的には・・・な

まだSHRが始まるチャイム以外は聞いていない

神崎「はあ・はあ・ただいま・・・」

俺「わざわざ走らなくてもよかったんだがな」

神崎「俺だつて走りたくなかったよ・・・逃げてきんだよ」

俺「誰から？」

神崎「わからない、ただ逃げてなかったらやばかったかも」

俺「何を見た？」

神崎「あいつら・・・軍隊のやつなんかな？武装してた」

俺「銃器を装備してたって事か？」

神崎「うん」

俺「ほう・・・あ、そっいえば」

神崎「？」

俺「お前の家、知らない刀なかったか？」

神崎「あつた・・・けど？」

俺「お前のところにもか・・・ん？」

神崎「どうしたの??」

俺「しゃがめ!!」

神崎「え!？」

俺「まさか・・・追跡してきたのか？」

神崎「なにが？」

俺「今、武装したやつらが校内に入ってきた」

神崎「え!??ど、どうしよう!？」

俺「落ち着け」

神崎「う、うん」

俺「とりあえず・・・賭けだ、あいつらと会話してみる」

神崎「な!??むっ無茶だよ!」

俺「なんかされたのか？」

神崎「いや、されてないけど・・・。」

俺「その間にお前は隠れる、いいな？」

神崎「・・・うん」

俺「じゃ・・・GO!」

掛け声と同時に教室から出る

出るまでは走ったんだがさすがにそれから歩きだ

アナザー第2話（後書き）

なぜ軍隊が？ そう、これが第一の世界破壊の歯車のです
厳密に言えば、集団催眠が歯車ですね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8974z/>

終わる世界に最後の約束を

2012年1月5日23時47分発行